



輪投げビンゴの楽しみ方



このゲームは、平成十年に、栗東市体育委員である市川知幸さんが病氣入院中に、わずかなスペースで、誰もが出来るニュースポーツを作りたいとの想いから、考案されたスローイングビンゴをヒントに、身近にある素材を使って家庭でできるようにと京都学園大学で改良を加えました。

実際のスローイングビンゴは、方眼的に向かってサンド・レットという袋を投げ、縦・横・ななめのいずれか5つ並べるゲームで、子どもから高齢者まで、屋内外を問わずにできる軽スポーツです。

今回は広告等で作った輪を布製の25升のターゲットに向かってビンゴになるように投げて遊びます。

(1)チーム編成は、4人対4人を基本とし、各プレイヤーの投球回数は3回とする。2人対2人、1人対1人で行うこともできる。

(2)じゃんけん等で決めた先行が、まずビュット(目標の袋)を投げる。(後述(8)のボーナスポイントに関係するので作戦を考えること)

(3)続いて、輪を先攻、後攻の順に各チーム1回ずつ交互に投げる。



(4)方眼の線上にかかって落ちた場合は、真上からみて、どちらのマスにはいるか判断する。きわどい場合は審判の判断によりリプレイ(再投球)とする。

(5)相手チームが先に入れたマスに、もう一方のチームが後から入れた場合、そのマスは共通のポイントになるが、同一チームが1マスに2個以上入れても無意味である。

(6)既に落ちた輪に、ぶつけて動いた場合も、元に戻すことはできない。

(7)これを繰り返して、縦・横・ななめのいずれかに5つ並んだとき(ビンゴ)10点が入り、その時点で、そのセットは終了する。

(8)ビンゴの列の中にビュットが含まれている場合は、ボーナスポイントとして、さらに5点追加する。

(9)1セットに、各チーム12回ずつ投げてビンゴが成立しない場合のみ、4つ並んでいる状態(リーチ)があれば、リーチ1列につき4点を与える。(ダブルリーチ、トリプルリーチもあり。1列につき4点なので、縦・横・斜めのビュットが絡むリーチ点は最高で24点フォースの場合は28点まで可能。)

(10)次のセットは、前セットで負けたチームが先攻となりゲームを再開する。

ルール

(1)投球フォームは自由とする。

(2)輪が着地するまで、スローイング・サークルから出てはいけない。

勝敗の判定

・1ゲームは3セットまでとし、総合得点で勝敗を決定する。



ちょっとひとこと

◎輪は、投げる角度や地面へのあたり方で、転がり方が変わり、偶発的な楽しさも味わえます。

◎輪を投げて相手の輪をずらすことも可能です。高度なテクニックですが、妨害も作戦のうちとなります。

◎6人対6人、12人対12人でも可能です。

◎参加者の実態に合わせて、方眼までの距離やスローイング・サークルの大きさを調整するとよいでしょう。